

1 アジア防災センターの概要

1 - 1 設立の経緯

アジア防災センターは、1998年7月30日に兵庫県神戸市中央区において開設された。当センターの設立までの経緯をまとめると次の通りである。

1) 国際防災の10年

国連では1987年12月の第42回総会において、90年代を「国際防災の10年」とし、国際協調行動を通じ、全世界、特に開発途上国における自然災害による被害の大幅な軽減を図ろうとする決議案が採択された。

2) 国際防災の10年世界会議の開催

1994年5月に、国際防災の10年の中間レビューと将来に向けた行動計画の立案を目的とする「国際防災の10年世界会議」が、国連の主催により横浜市で開催された。この会議では、災害の形態や防災対策に共通点を有する地域レベルにおける国際協力の重要性などを指摘した「より安全な世界に向けての横浜戦略」が採択され、これに則って世界中で国際防災の10年に関する活動が進められることとなった。

3) アジア防災政策会議の開催

横浜戦略における地域レベルの協力の第1歩として、アジア地域を中心とする28カ国の防災関係閣僚等の参加を得て、「アジア防災政策会議」が1995年12月に国際防災の10年推進本部の主催により神戸で開催された。この会議では、アジア地域における防災センター機能を有するシステムの創設の検討開始を日本より提案するなど、国際防災協力の推進に向けた「神戸防災宣言」が採択された。

4) アジア防災専門家会議の開催

「神戸防災宣言」に盛り込まれた、「アジア地域における防災センター機能を有するシステム」の創設を議題にした「アジア防災専門家会議」が、1996年10月に30カ国の防災担当部局長等の参加を得て、国連防災の10年推進本部の主催により東京で開催された。この会議では、同システムの活動を推進するための事務局として「アジア地域防災センター（仮称）」を置くことについて検討を進めることとなった。

5) アジア防災協力推進会合

「アジア地域における防災センター機能を有するシステム」の具体的な活動内容等について、23カ国の防災担当部局長等の参加による「アジア防災協力推進会合」が1997年6月に国連防災の10年推進本部の主催により東京で開催された。そして、同システムの事務局として「アジア防災センター」を日本に設置すること、センター

の組織の性格として、各国が合意して設立する機関とすべきであること、ADPC（アジア災害防止センター、タイ）がオブザーバーとして参加すること等が提案された。

6) アジア防災センターの設立

このような経緯を経て、日本政府でアジア防災センターの組織や運営経費等について関係各国と協議を重ねた結果、アジア防災センターは地元兵庫県の協力も得て、1998年7月30日に兵庫県神戸市に設立されるにいたった。

1 - 2 組織及び体制

アジア防災センターは当初22のメンバー国、4のアドバイザー国及び1オブザーバーから構成されていたが、2000年8月にアルメニアが加盟し、現在メンバー国は23カ国となっている（具体的には、表2-1-1、表2-1-2、表2-1-3を参照）。

日本国政府内閣府の監督のもとにある（財）都市防災研究所の付置機関として設置されている。

1 - 3 活動方針とこれまでの活動内容

1 - 3 - 1 活動方針

アジア防災センターは、アジア地域における防災関連情報の共有を目的とする防災情報センターとしての機能を強く持つ組織である。その基本的な機能を踏まえて、次に挙げる5つの活動事項が、過去の国際会議を通じて与えられている。

- 防災情報の収集・提供
- 防災協力の推進に関する調査
- 災害発生時の各国の緊急援助等に関する情報の収集
- 防災に関する知識の普及、意識の向上、資料の企画
- 防災に関する教育・訓練プログラムの企画

アジア防災センターでは、その初年度から3年間の基本的な活動方針を以下の通り定めた。

- (1) 次の情報について体系的に集積し、データベース化して発信すること
 - 災害情報
 - 防災情報

- 防災啓蒙、防災教育、防災訓練にかかる情報
 - 防災技術にかかる情報
 - 防災分野における人材情報
- (2) 防災情報ネットワークを構築し、情報の収集、発信のための手段はインターネットによること
 - (3) 防災にかかる国際協力を進めるために、メンバー国の防災担当者と定期的な会合を開催し、信頼関係の醸成を図ること
 - (4) メンバー国からの研究者を毎年一定規模で受け入れること
 - (5) アジア地域にあるメンバー国間の情報共有のため、共通言語を英語とすること

また防災に関する情報の収集、データベースの整備に当たっては、上記項目に関する情報の収集を同時並行で行うが、当初3年間の情報収集・整備の重点としては

- 災害情報、防災情報及び人材情報の整備を優先し、
- 普及啓発、教育訓練及び防災技術に関する情報の整備を引き続き行うこととした。

1 - 3 - 2 これまでの活動内容

アジア地域の防災情報センターとして幅広く的確に防災情報を得るためには、まずは、組織の存在を広くアピールし、関係国及び関係機関との協力関係を樹立していくことが、何にもまして重要である。

そこで、関係する国際会議などへの出席、関係国への訪問調査、関係機関からの視察・研修の受入れなどを積極的に行うとともに、1999年2月のシンポジウム・専門家会議、1999年12月の第2回専門家会議につづき、今年度も2000年12月に神戸で専門家会議を開催した（後述）。

また初年度から開始した世界の災害情報等の情報提供体制を一層強化するとともに、これまでに開催した専門家会議等で入手したメンバー国の情報等をもとに、各国の防災体制等のデータベースを構築し、順次情報提供を開始した（後述）。

このような活動を通じて、防災分野におけるアジア防災センターの知名度が国際的にも徐々に向上し、1999年7月ジュネーブで開催された国際防災の10年の締めくくりとなる防災会議(プログラム・フォーラム)では、この10年間のサクセス・ストーリー(成功事例)10題の一つに選ばれ、130カ国700人の参加者に活動内容を紹介する機会を得た。

また、2000年2月から、国連人道問題調整事務所(OCHA)と国際防災共同プロジェクトを立ち上げ、防災分野や災害対応分野における連携協力体制の整備を通じて、アジア地域における災害対応力の強化も図ることとなった。これにより、アジア防災セ

ンター内に OCHA アジア災害対応ユニット（OCHA アジアユニット）が開設され、災害対応アドバイザーが配置され、それぞれが有する情報を共有し活用しながら、密接な連携の元に、活動を進めている。なお、本ユニットについては、OCHA の災害情報発信を担当している ReliefWeb の機能も付加する方向で、現在国と OCHA の間で協議が進められている。

さらに、GDIN(Global Disaster Information Network)国際会合にも 2000 年 4 月のアンカラ会合から参加し、アジア太平洋地域ワーキンググループの構成員として積極的に活動に参加しており、アジア地域にとどまらず世界的な防災情報共有化の動きに貢献するなど、活動はますます広がりつつある。

表 1-3-2-1 <これまでの主な活動記録>

98.7.30	開所式典開催 会場：IHD ビル3 階参加者数：約 150 人
98.9.1	世界災害速報提供開始 <2001.3.25 までに 156 件の災害速報を発信>
98.10~	メバ ^ル -国調査(韓国、フィリ ^{ピン} 、マレーシア、シンガ ^ポ ール、バ ^ン グ ^ラ デ ^シ ュ、ベ ^{トナム} 、タイ、ミ ^ア 、インド ^ネ シア、パ ^プ ア ^ニ ュー ^ギ ニア、中国)
98.11.7	バングラデシュ外務大臣アブドゥス・サマド・アザド氏来訪
98.11.9~11.13	WHO 西太平洋地区・緊急事態対応力強化のための国際ワークショップ ^{（マニラ）} 出席 <ADRC の開設について紹介>
98.12.1	防災人材データベース運用開始<51ヶ国約 1,400 人登録済み>
99.2.15	ADRC 国際シンポジウム開催 会場：兵庫県公館 <参加者数：21ヶ国約 250 名（一般参加を含む）>
99.2.16~2.18	ADRC 専門家会議開催 会場：IHD ビル <参加者数：21ヶ国 1 機関 30 名>
99.2.23~2.26	ESCAP-IDNDR Regional Meeting for Asia(バ ^ン コ ^ク)出席 <ADRC の活動内容を報告>
99.3.18	国際防災の 10 年事務局長フィリップ・ブレ氏来訪
99.5~7 月	阪神・淡路大震災関連テ ^マ -ス、防災研修テ ^マ -ス、防災体制テ ^マ -ス、国別防災総合情報等をインターネット上に順次発信
99.7.5~9	国連防災の 10 年 ^{（ジュネーブ）} 出席 <サクセ ^ス ストーリーとして、ADRC の開設・活動を説明、セッション「災害予測等のための情報伝達技術」をコ ^ー ディ ^ネ イト>
99.7.12~7.16	スイス政府、フランス政府、国連人道問題調整事務所、ル ^ー ベ ^ン コ ^{トリ} ック大学災害疫学研究所(ブリュッセル)等調査
99.7.23~	メンバー国から順次研究員受入れ開始 <韓国、ベトナム、ネパール、インドネシア>
99.9.23	パ ^プ ア ^ニ ュー ^ギ ニア政府とジョイント ^{（プロジェクト）} 開始 <津波防災普及啓発>
99.9.29~10.4	台湾緊急支援チームに参加
99.11.5	ル ^ー ベ ^ン コ ^{トリ} ック大学災害疫学研究所と「防災情報収集協力についての覚書」締結
99.12.6~8	第 2 回 ADRC 専門家会議開催 会場：IHD ビル <参加者数：24ヶ国 4 機関 36 名>
2000.1.13	世界銀行・パリ会議に出席

2000.2.7	国連人道問題調整事務所(OCHA)アジアユニット開所式開催
00.4.26-29	第3回 GDIN 国際会合(アムステルダム)に参加<ADRC の活動、VENEN システムを報告>
00.5.3-4	アルメニア共和国 NSSP 訪問<ADRC への新規加盟についての意向聴取等>
00.5.6-7	イラン IIEES 訪問<ADRC への新規加盟についての意向聴取等>
2000.8.31-9.4	防災フェア 2000 参加 ブース出展 会場：そごう神戸店 8F
00.	GDIN ハワイ
00.10.24-27	SAGIP2000(マニラ)参加<ADRC のメカニズム-国の防災情報共有について報告>
00.12.5-7	第3回 ADRC 専門家会議開催 会場：IHD ビル <参加者数：26ヶ国6機関40名>
00.12.5-7	第3回 ADRC 専門家会議開催 会場：IHD ビル <参加者数：26ヶ国6機関40名>
00.12.8	国際防災戦略アジア地域会合 会場：三田共用会議所
01.01.	防災技術展参加 ブース出展 会場：
01.02.05-06	世界防災会議 2001 共催 会場：淡路夢舞台国際会議場
01.03.20-23	GDIN2001(キャンベラ)参加 <VENTEN 紹介、Matrix/Unique ID プロジェクト提案>